

---

# 彼岸花

teras

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼岸花

### 【Nコード】

N7814Y

### 【作者名】

teras

### 【あらすじ】

少年の物語。

「彼岸花って、素敵な響きですね」誰かの声が、聞こえた気がした。

## 一章 ？（前書き）

この小説は、所々に、残酷な描写、また、直接的な暴力、グロテスクなどの描写が含まれる場合があります。ご了承ください。

## 一章？

目を焼くような彼岸花の紅い色に、少年はあの頃を思い出す。同じ様に紅い髪を、同じ様に紅い花と一緒に風になびかせて、紅い海の中に立つ少年は、まるで神話の一説に出てくる、何かのよう

で。  
不思議な空間は、不思議な景色を経て、破裂した

死者は物言わぬ。当たり前の事実を、当たり前の様に確認した自分を  
分を見て、当たり前の様に心が動くのを感じる。  
今し方殺された何か。今し方殺した自分。  
それが罪なのか、何が罰せられるのか。この世界で確立されていないものは多すぎて、この世界は不確か過ぎる。

「ねえ……」

どうやら、俺の連れは、ほんの少しの物思いにですら、耽らせてはくれないようだ。

全く、難儀な事。

「残念ながらね。人に人を裁く権利なんてないんだよ？ 少年くん」  
「ならば俺は、人なんかじゃなくなってやるよ、ばあさん」

つい先程人を切り裂いたばかりの剣を鞘にしまふ。剣はすでに拭つてあるから、錆びるとかは心配ない。というより、俺の剣は錆びたためしがないから、拭う事が必要なのかも疑問だ。

「わたしは少年と対して年の差はなかったはずだが……？」

「実際老けて見えるんだから自業自得だな」

自分の下には死体。自分の横には、確かに自分と同年くらいの女。自称魔女というばかり。

「魔女のわたしには、少年の考えている事までわかるのだがね」

「おお、それは良かった」

こいつとまともに話していたら、どれだけ時間が合っても足りないと思う。

思想で会話できるなら、それでいいじゃないか。お前には俺の言葉が筒抜けなんだからこのやろう。

「ああ、筒抜けさ少年くん。口は慎みたまえ、うるさいからね」

「慎んでるんだが、口は」

「そんなことよりね、少年」

こいつ、どう考えても話聞いてないだろ。

「わたしはね、君に耳がついていたことに酷く驚いているよ」

「お前は本当に、一回くたばれクソばばあ」

死体の後処理は、処理班がやること。くだらない会話を続けながら、俺は懷から短刀を取り出す。

「全く、少年。君は気が早過ぎないかい。もう少しここを見て行こうとか思わないのかい？」

「うるせえ」

刃渡り約15cm程度のそれを、鞘から取り出し、雲に隠れかけた太陽光を反射させる。

毎回、この剣は綺麗だとは思わないが、不思議だと思う。

「メルト・」

まず、三角形を。

「エ・」

そして三角形を囲むように円を。

「ディーヴァ」

最後に三角形の上に逆三角形を。

剣の切先で、目の前の空中に描く。

切先に光の粒子がついているとか言うわけでもないから、全く視えない空間に剣を向けるという、なんとも滑稽な図になっていたはずだが、気にはしていない。

なにより既に、自分の目の前にはその図形が、浮かんでいるのだから。

「切り裂け」

自分の体が粒子となって霧散していく様を、誰が好き好んで体験しようと思うのか。

更に言えば、その霧散した体が再構築されていく様を、誰が体験したがるというのか。

俺はどちらも本当はゴメンだ。体験などしたくないし、二度とやるものか、とまで思うのだが、どうも世界は甘くない。

全ての行程が終わり、短刀を鞘にしまう。

隣にあの自称魔女はいない。何故なら、帰ってくるのには、あいつ本人が、先程自分がやったように短刀を用いて、空間を切り裂いてこなければいけないからだ。そして何故隣にいないかというと、空間を切り裂く先は、常に未定だからだ。

すると、自ずと生じる問題がある。

さて、ここは一体何処だろうか。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7814y/>

---

彼岸花

2011年11月23日11時52分発行